

数 学

I

■出題のねらい

数学 I，数学 II，数学 A の範囲から，恒等式，三角関数を含む方程式，指数関数を含む不等式，因数分解，整数の性質について，基礎的な知識と計算力を問いました。

■採点講評

- (1) 恒等式に関する問題です。おおむねできていました。
- (2) 三角関数を含む方程式に関する問題です。よくできていました。
- (3) 指数関数を含む不等式に関する問題です。おおむねできていました。
- (4) 因数分解と整数の性質に関する問題です。あまりできていませんでした。素数の性質について理解を深めてください。

II

■出題のねらい

数学 A，数学 B の範囲から，平面上のベクトル，確率について，基礎的な知識と計算力を問いました。

■採点講評

- (1) 平面上のベクトルに関する問題です。あまりできていませんでした。ベクトル，内積，余弦などの関係，計算について理解を深めてください。
- (2) 確率に関する問題です。よくできていました。

III

■出題のねらい

数学Ⅲの範囲から、微分・極限・複素数平面について、基礎的な知識と計算力を問いました。

■採点講評

- (1) (i) よくできていましたが、まれに微分計算や法線の傾きの公式適用ミス等が見られました。基礎的な問題ですが、間違えると (ii) (iii) は正答に到らなくなるので、慎重に臨みましょう。
- (ii) この問もよくできていました。ただ、符号間違い等のケアレスミスが散見されましたので、気を抜かずに取り組みましょう。
- (iii) 微分係数の定義を用いて極限值を求めることにはなりますが、基本的内容にも関わらず、あまりできていませんでした。微積分の基本中の基本であるところの微分係数 (の定義) ですので、しっかり押さえて応用できるようにしておきましょう。
- (2) (i) (ii) とともによくできていました。複素数の極形式とその応用を押さえておけば容易に正答できる問ですので、やはり基礎力を充実させておきましょう。

IV

■出題のねらい

数学Ⅱ、数学Ⅲの範囲から、三角関数、積分法とその応用について、標準的な知識と計算力を問いました。

■採点講評

全体としては、あまりできていませんでした。

- (1) 絶対値の取り扱いや、積分範囲で間違える答案が見受けられましたが、よくできていました。
- (2) 合成を間違えているものや、 $S(a)$ を微分して $S'(a)=0$ のみを解いて最小となることを調べていないものも多く見られました。
- (3) $\cos^2 x$ の積分ができていないものや、 π が抜けるミスが見受けられました。

V

■出題のねらい

数学Ⅰ，数学Ⅱの範囲から，三角比，数列について，基礎的な知識と計算力を問いました。

■採点講評

- (1) 余弦定理，正弦定理に関する基本的な問題です。おおむねよくできていました。
- (2) 数列に関する問題です。空欄 ， はよくできていましたが，空欄 は誤答が目立ちました。階差数列，数列の一般項などの事項について復習しておきましょう。

VI

■出題のねらい

数学Ⅱの範囲から，微分法と積分法について，標準的な知識と計算力を問いました。

■採点講評

- (1) よくできていました。
- (2) おおむねできていましたが，時折，増減表を正しくかけていない人が見受けられました。増減表の書き方とその意味について復習しておきましょう。
- (3) あまりできていませんでした。共通接線の求め方について復習しておきましょう。
- (4) 定積分の問題です。解答できていない人が多くいました。解答した人はおおむね正解していました。

I

■出題のねらい

斜面上を動く質点の運動と質点の斜面からの投射による放物運動を題材に、運動方程式や力学的エネルギー保存の法則といった力学の基礎的な知識の理解度を確認する問題です。

(1) は重力を受けて斜面をすべり下りる質点の運動を考える問題です。問1では、斜面上に置かれた質点の運動方程式が正しく書けるかを確認しています。「(質量)×(加速度)=(質点にかかる外力の総和)」をしっかりと意識して式が書けているかを見ています。問2では、等加速度運動の基礎的な理解度を確認しています。問3では力学的エネルギー保存の法則を用いて、位置エネルギーがすべて運動エネルギーに変換された後の質点の速さを求める問題です。

(2) では、ばねによって押し出された質点が斜面を登る運動を考えています。ア, イ, ウでは、ばねがもつ弾性エネルギーと運動エネルギー、位置エネルギーの三者の関係を力学的エネルギー保存の法則を使って導いています。

(3) では、質点を斜面から投射することを考えます。問4は、質点が斜面から投射される瞬間にもつ運動エネルギーと位置エネルギーを正しく理解しているかを確認する基本的な問いになっています。問5では、力学的エネルギー保存の法則を用いて、質点を斜面上端から指定した速度で投射するのに必要なばねの縮みを求めています。導出過程については、投射時に質点が持つ力学的エネルギーとばねがもつ弾性エネルギーが等しいという力学的エネルギー保存則の等式が正しく書けるかを見ています。

(4) では斜め上方に投射された質点の放物運動を考えています。問6は質点が投射されてから最高到達点に到達するまでの時間を求めています。これにより、投射位置から最高到達点までの高さの差も求めることができます。問7では、質点の水平方向についての到達距離を求めています。問6で求めた時間に加えて、鉛直方向について自由落下運動を考えることにより最高到達点から水平面まで落下するのにかかる時間から計算することも可能です。あるいは、投射位置の高さと最高到達高さの差を考慮して、水平面から投射位置までの高さの差を用いて、投射直後から水平面に落下するまでにかかる時間を2次方程式より求めることも可能です。

■採点講評

本問題は60点満点で解答欄が12個あり、各5点を配点しています。部分点ははありません。記号の間違いや添え字の書き忘れなどのケアレスミスも散見されましたが、すべて不正答としています。全体を通して力学に関する基礎事項を問う平易な設問であり、採点結果では各設問の間で正答率の顕著な差は見られませんでした。平均得点率は約63%でした。得点の分布を見ると、10点から15点の間をピークとする小さな山と45点付近をピークとする大きな山が見られ、25点付近が谷間となっていました。つまり、受験者の得点分布の二極化がはっきりと現れまし

た。得点者数比率を見ると25点以下が約25%であり30点以上が約75%であったことから、本問題の難易度は、本入試の受験者層にとって取り組みやすい問題であったことがわかります。なお、50点以上の得点者が約31%でした。本問題で50点以上は得点できるよう、教科書の力学に関する基礎事項をよく理解し、教科書の練習問題をよく復習することを心がけてください。

II

■出題のねらい

荷電粒子が電界（電場）と磁界（磁場）から受ける力について理解しているかを問いました。またその応用としてホール効果を理解・説明できるかを問いました。

(1) では電界や磁界の一様性を仮定していません。電荷が電磁界から受ける力は局所的に定まるということを認識してもらいたいという意図でこのような設問にしました。多くの受験生にとってはあまり気にならなかったことと思いますが、過去問題として勉強するときそのことを意識してください。

(2) のホール効果の設問では、直流抵抗も同時に考えて教科書の通常の記述から少し変化を持たせました。

■採点講評

基本的な問題だからでしょう、全般的によくできていました。

1つだけ気になった点は、空所 と空所 でローレンツ力（ベクトル）の大きさと向きを正しく答えられているのに、そのベクトルの成分を問うている問1を正答できてない受験者が少なからずいたことです。問1は間違っているのに、後の空所 は正答していることが多かったため、物理的状況は理解できているのに成分だけ書けていないように思われました。

確かに、ベクトルの3次元成分表示はあまり見慣れないかもしれませんが、しかし、教科書の図には（必然的に）3次元ベクトルが多く描かれていています。我々の住んでいる空間は3次元であり、物理に出てくるベクトルは3次元ベクトルです。磁束密度と荷電粒子の速度とローレンツ力の関係は3次元空間での関係です。3次元ベクトルの成分（表示）は既知の事柄のはずですから物理の問題の中でもきちんと答えられるようにしておきましょう。

荷電粒子が電磁場からどのような力を受けるかを理解してれば、（ホール効果以外にも）非常に多くの身の回りの現象を理解・説明できます。基礎的な事柄から多くの身近な現象を理論的に説明できるのが物理の醍醐味です。過去問題として勉強するときは、(2) の問題を空所問題ではなく、記述式問題として解答できるようになるまで深く理解するようにしてください。

Ⅲ

■出題のねらい

波動に関する基礎知識があるか、また、それを応用して現象を理解できるかどうかを問いました。複雑な数式に頼らずに、物理現象を把握しているかどうかを問いました。公式を覚えて利用するのではなく、基本的な概念から公式に相当するものを導き出せるかを問いました。

■採点講評

独立した設問が多かったので、途中ができなくても答えられました。全体を通せば、正答率は高かったです。

□ア□，□イ□は波の重ねあわせによって生じるうなりについての設問です。2つの波の位相の変化を把握できれば、正答できます。位相という概念が分かりにくかったようで、正答率は低かったです。

□ウ□はほとんどの人が正答していました。

□エ□，□オ□，□カ□は、ドップラー効果についての設問です。□オ□，□カ□は数式の内容を理解しないと正答できません。いわゆる公式ではありません。全体の中で最も正答率が低かったです。

□キ□では、波長・速さ・振動数に関する基本的な知識も問いました。分子分母が逆の誤答が多くありました。暗記もののようですが、物理量の次元に注意すれば間違いは避けられます。

□ク□はうなり・ドップラー効果についての2つの問題の結果より導かれます。それぞれを正確に扱えば正答できます。正答率は低かったです。論理の流れをしっかりと把握してください。

□ケ□，□コ□，□サ□は定常波についての知識があれば解答できます。同じ現象でも見方を変えて考慮できることを理解してください。

全体を通して、基本的な物理用語や公式の知識だけでも、ある程度の得点はできたようですが、それだけでは合格圏内には至りませんので、基礎知識から論理を築きあげていくことができるようにしてください。

I

■出題のねらい

酸化マンガン(IV)の触媒存在下における過酸化水素の分解反応系を取り上げ、反応速度に関する基本的な概念を問いました。

■採点講評

この反応系では、酸化マンガン(IV)が触媒として作用し、過酸化水素が分解して、酸素と水が生成します。この反応は教科書に掲載されており、基本問題と言えます。

(1)では、過酸化水素の分解反応の化学反応式を問いました。反応式の係数が間違っている解答が複数ありました。まず、反応式を正しく書くことが問題を解くためのスタートラインになりますので、しっかりと書けるようにしてください。

(2)では、酸化マンガン(IV)の役割を問いました。漢字の間違いとして「食媒」や「解媒」などがありました。専門用語は漢字も含めてしっかりと覚えてください。また、反応速度が大きくなる理由ですが、「活性化エネルギーが下がる(小さくなる)」ことが述べられていることが重要です。

(3)は、発生する酸素の物質量を求める問題です。リード文に記載されている「25℃、1気圧における気体1 molの体積は22Lとする」を用いて計算すれば、簡単に求まります。

(4)～(6)は、特定の時間における過酸化水素の濃度や平均の分解速度を求める問題です。本文で記述されているように、分解速度=(過酸化水素の濃度の減少量)/(反応時間)で求まります。計算ミスや有効数字の誤りも見られました。細心の注意を払ってください。

(7)は、反応速度定数 k を求める問題でした。各反応時間における平均の分解速度 v は、過酸化水素の濃度 $[\text{H}_2\text{O}_2]$ に比例します。このことは式(i)に、 $v=k[\text{H}_2\text{O}_2]$ として表されています。(6)で求めた120～180秒での H_2O_2 の平均の分解速度と平均の濃度を式(i)に代入して、 k を求めてください。

(8)は、反応速度定数 k についての定性的な問題でした。反応速度定数は、温度が上がると大きくなりますが、反応物の初期濃度を変えても変化しません。

全体を通して、基礎的かつ平易な問題であったと思いますが、予想よりも平均点は低かったと思います。また、採点において、非常に乱雑な答案もいくつか見られました。客観的に見て、判別不能な答案は不正解になりますので、丁寧に書くことを一層心がけてください。

II

■出題のねらい

金属を用いる化学実験を題材として、金属の反応とその酸化・還元についての理解度を問いました。

■採点講評

基礎的な問題でしたが、全体的に正答率はかなり低くなりました。化学反応式は覚えていても、そこで起こっている金属の酸化・還元変化やイオン化傾向が理解できていなかったため、低い正答率になったと思います。

(1) の正答は②ですが、①あるいは③の解答が目立ちました。(d), (e)いずれの反応も教科書に準じた基本的なものですが、どちらか一方のみしか答えられなかったため、正答率が低くなったと思います。

(2) は、(b)の化学反応式がほとんど間違っていました。希硝酸との反応であるので、NOが発生しますが、(a)と同じくH₂が気体として発生するとした解答が非常に多かったです。別の誤答としては、NOが発生するのではなく、NO₂が発生する濃硝酸との化学反応式を書いた解答も目立ちました。また、Cu(NO₃)₂ではなくCu(OH)₂やCuOを生成物とした解答も目立ちました。銅片と濃硝酸・希硝酸・熱濃硫酸との化学反応は、必ず覚えましょう。

(3) は、(a)で起こる反応の原理(酸化還元)について問いました。残念ながら、(2)(a)の化学反応式を正答している人でも、ほとんどが間違っていました。全体を通じて一番正答率が低かったと思います。「酸化剤としてはたらく物質」と「還元剤としてはたらく物質」を逆に答えていた解答も多く見られました。「酸化剤=e⁻を受け取る=還元される」「還元剤=e⁻を放出する=酸化される」という関係性をしっかり覚えてください。これが分かっているならば、ほとんどの人が正答できたはずです。

(4) は、比較的よくできていました。

(5) は、熱濃硫酸との反応であるので、SO₂が発生します。しかし、3)ではSO₃とした解答も目立ちました。4)では、 $2\text{SO}_2 + \text{H}_2\text{S} \rightarrow 2\text{S} + \text{H}_2\text{SO}_4$ とした誤答が非常に多かったです。他には、SO₃が生成する反応式などもありました。

(6) は、金属のイオン化傾向についての問題でした。完答のみ得点を与えましたが、大変よくできていました。多くの受験者が、金属のイオン化傾向を正しく暗記していたものと思います。

III

■出題のねらい

[1] は、プラスチックに関する用語や工業的に多く利用されているポリスチレンに関する基本的な問題です。[2] は、水中の塩を取り除くイオン交換樹脂に関する理解度を問いました。いずれも「高分子化合物」からの出題です。

■採点講評

(1) のア、イは、プラスチックの性質によって2種類に分類した時の用語であり、実際に良く用いられます。誤答として、アを「熱軟化性」とした解答が見られました。また、漢字の間違ひが多く、採点者をかなり悩ませました。漢字も含め、適切な化学用語を正確に覚えてください。

(2) は、比較的よくできていましたが、書き方が雑な答案も散見されました。化学の学問において、化学式や構造式をきちんと書くことは必須事項です。

(3) は、反応の様式から重合反応を分類した時の名称ですが、③とした誤答が見られました。「縮合」という用語は、反応によって水分子が脱離する場合に使われます。それぞれの反応のしくみを理解し、違いをしっかりと確認しておきましょう。

(4) は、スチレンの構造式が分かれば解ける平易な問題ですが、意外にも正答率は低かったです。分子量の算出を間違っていると思われる答案も多数見られたので、十分に気をつけてください。

(5) と (6) は比較的よくできていましたが、構造式の書き方に不備のある答案も見られました。構造式は丁寧に記載してください。また、(6) では、官能基という観点では「スルホ基」が望ましいですが、名称として「スルホン酸」も正解としています。

(7) は、よくできていました。

(8) は、様々な解答の仕方があるので、字数制限を設けずに出題しました。問題文に「交換するイオンを示して」と書かれているので、最低限「 Ca^{2+} と H^+ 、 SO_4^{2-} と OH^- がそれぞれ交換すること」が説明文に含まれていなければいけません。主述関係や助詞の使い方が悪いために文意が読み取りにくい答案も多く、正答率はよくありませんでした。今後は化学の知識だけでなく、説明力も重視されると認識してください。

(9) は基本的な問題ですが、40mL と記載した答案が多く見られました。硫酸カルシウム水溶液を陽イオン交換樹脂に通すことにより、カルシウムイオン (Ca^{2+}) 1 mol に対して水素イオン (H^+) 2 mol が交換することになります。したがって、中和に必要な水酸化ナトリウム水溶液の量も2倍になります。

I

■出題のねらい

留学中のホームステイ先で学校生活について尋ねる場面を想定した、日常的な会話問題です。口語的な会話表現や、会話内容についての理解ができているかを問う問題です。

■採点講評

全体的によくできていました。□1の正答率が低かったですが、このような慣用的な会話表現にも普段からなじむようにしてください。□5の問題では、①と答えた誤りが多く見られましたが、almost every day（ほとんど毎日）と each and every day（毎日欠かさず）の意味の違いに注意しましょう。

II

■出題のねらい

効果的な昼寝の取り方について書かれた記事と図表から、情報内容を正確に読み取れているかを問う問題です。記事の趣旨をよく理解した上で、まぎらわしい選択肢にひっかからないように正確に判断することが必要です。

■採点講評

全体的にまずまずの正答率でした。□10は記事内容や図表に書かれた内容にそれぞれの条件があてはまるかどうか1つ1つ丁寧に確認していけば解けます。□11は記事内容を別の言い方にまとめた文章ですが、記事の趣旨を正確に理解した上で要約中の文の論理的なつながりをつかむことが大切です。

III

■出題のねらい

インターネット上のボードゲームの遊び方についての説明を読み、ゲームの目的（どのようにすれば勝てるのか）とルール（どのように駒を動かすのか）を正確につかめているかを問う問題です。

■採点講評

全体的によくできていました。15 16 については2つとも正解した人は少なかったようですが、落ち着いて英文から1つ1つ条件に合うかどうかチェックしていけばできるはずです。

IV

■出題のねらい

Shyness の対処の仕方について書かれた英文を読んだ上で、英文読解のための基礎的な語彙や文法の理解と、内容の理解について問う問題です。段落ごとに述べられている趣旨をつかみながら、全体として何を伝えているのかを理解することが大切です。

■採点講評

全般的にやや難しかったようです。20 は little の劣等比較級 less が正答ですが、正答を導くために必要な文の前半部分の語彙 (low self-esteem 「自尊心の低さ」や feelings of unworthiness 「自分には価値のないという思い込み」) の理解が難しかったようです。

22 は “figure” の意味を問う問題ですが、このような多義語にかかわらず、語彙の理解については普段から文脈に応じた適切な意味をつかむように心がけることが大切です。

V

■出題のねらい

文化によって異なる挨拶の仕方について書かれた英文をもとにした、語句整序による英作文問題です。単に機械的に語を並べ替えるのではなく、前後の文脈を理解して、的確な文を自分で作ることができるようにすることが大切です。

■採点講評

英作文問題は、全般的に正答率が低かったです。問題個所の前後を含む文全体の構文をつかむようにしましょう。とくに関係節や分詞をともなう修飾節に注意する必要があります。参考までに、該当部分の正しい語の並び方は、次のようになります。

27 ⑤people ④who ③are ②friendly

28 ②to ③the Japanese ①in ④the way

29 ⑤it ④gives ③a ②feeling

I

出典 松長有慶『密教』

呪術性を多く取り込んでいるために仏教の異端児とみなされがちな密教が、実は仏教の本質と正統性を受け継ぎつつ発展した宗教であることを論じています。仏教の歴史的な展開を丁寧に読み解くことが大切です。

問1【漢字の書き取り問題】(解答番号は①～⑦)

a 痕跡 b 撰取 c 荒唐 d 聴聞 e 浄土 f 起伏 g 思索

荒唐無稽の「荒唐」があまりできていませんでした。聴聞の「聞」を「門」や「問」と書く答案や、「思索」を「試作」と書く答案が目立ちました。

問2【空欄補充 文脈把握に関する問題】(解答番号は⑧・⑨)

西暦紀元の少し前ころから、新しい信仰集団が生まれてきたと述べている文脈の流れから、空欄Ⅰには歴史的な転換を示す語が入ります。仏教を聖と俗とに一方的に割り切って考える思考法を、「そもそも」と根源的に捉え直そうとしている文脈の流れから、空欄Ⅱには「一方的」な判断に対する批判的な語が入ることになります。したがって空欄Ⅰの正解は⑥、空欄Ⅱの正解は⑦です。

問3【空欄補充 文脈把握に関する問題】(解答番号は⑩)

空欄アは、仏教が呪術などの行使を黙認していた事実を受けて、「たてまえ」としての態度や立場を示す言葉が入ることになります。正解は③です。

問4【空欄補充 文脈把握に関する問題】(解答番号は⑪)

空欄イは、民衆が生活の中で信仰していた神々が仏教の中に取り込まれていったという文脈から、日常的な安心感や信頼感を醸成する言葉が入ることになります。正解は⑥です。

問5【空欄補充 文脈把握に関する問題】(解答番号は⑫)

空欄ウは、直前に「民衆を仏教にひきつけるためには」との記述があるので、その目的に沿った表現でなければならないことが理解できるでしょう。正解は④です。

問6【空欄補充 文脈把握に関する問題】(解答番号は⑬)

空欄エは、「また両経には」として前段の内容を受けて展開する文に順接する文の結語を形成するものであることに気づく必要があります。正解は④です。

問7【傍線部の理由 内容理解に関する問題】(解答番号は⑭)

「仏教の本来の姿勢」が何を指しているのかを正しく認識し、さらに、「本来の姿勢に反するのではないかという疑問」を整理した上で、疑問の理由を把握することがポイントです。正解は②です。

問8【傍線部の説明 内容理解に関する問題】（解答番号は15）

「常識的な視点」が何を指しているのかを正しく認識することが先決です。その上で、それとは違った見解とは何かを正しく把握するように努めましょう。正解は⑥です。

問9【傍線部の理由 内容理解に関する問題】（解答番号は16）

傍線部の直前に「バラモン教であれ、民間信仰であれ」との挿入がありますが、傍線部の主語として機能しているのは「仏教教団も信徒も」であることを理解することが肝要です。その構造が理解できれば、「わが身にふりかかる災害を払い、日常生活の安泰を得るためには」が理由を示す記述であることを理解できるはずで、正解は⑥です。

問10【内容を理解して小見出しを選択する問題】（解答番号は17）

仏教は成立の初期段階において、呪術的な要素を一部容認しながら民衆の信仰心を獲得し、西暦紀元の少し前ころから変質することを述べた内容です。話題の中心は仏教成立初期の呪術性にあります。したがって正解は②です。

問11【内容を理解して小見出しを選択する問題】（解答番号は18）

仏像の誕生から初期の密教経典が成立するまでの歴史を簡略に紹介した内容です。結論が文末にある展開を把握できれば、呪法と儀礼が鍵になることは容易に理解できるでしょう。したがって正解は⑥です。

問12【内容合致問題】（解答番号は19・20）

正解は⑥と⑧です。①は「呪術などの行使が悟りへの道にとって有益であり」が誤りです。②は「仏教の教線拡大がバラモン教の復興の原因になる」が誤りです。③は「密教の儀礼や諸尊などにバラモン教やヒンドゥー教との密接な関係を否定する要素が顕著に認められるとする見かた」が誤りです。④は「仏教研究の進展によって、大乘仏教の経典は奇蹟談と無関係に成立したことが判明した」が誤りです。⑤は「仏教教団に加入した比丘たちはヒンドゥーとしての慣習や行動規範を変えることなく日常生活をおくっていたと」が誤りです。⑦は「北伝系でも上座部系統の中に呪蔵が別立されているのは、大乘仏教となんらかの関係をもつ」が誤りです。⑨については、「大乘仏教が繁栄した地方から発掘された僧院の構造」と、「中観や唯識などの精緻な理論体系を構築した大乘の学匠たちが密教の修法に励んでいた」ことを結びつける推論は、本文には記されていません。また、この推論は「密教が大乘仏教とまったく別個に、独自の教団を組織していた証拠がみあたらない」ことの原因にはなりません。

II

出典 三中信宏『系統樹思考の世界』

進化生物学者による、「系統」の体系について解説された本です。仮説や理論はデータによる検証を受けて初めて科学として成立するという内容を理解できれば、難しくない問題でした。

問1【漢字の書き取り問題】（解答番号は21～27）

a 途上 b 匹敵 c 勤勉 d 結実 e 衝撃 f 標的 g 適合 がそれぞれ正解です。難解な熟語は文脈から意味を判断して解答を導くことが大切です。

問2【空欄補充・前後の文脈から適語を選ぶ】（解答番号は28・29）

空欄Ⅰには「連想」が入ります。「物語」という語と「おとぎ話」という語との一般的な関連性を考えることで正解が導けました。空欄Ⅱには「翻訳」が入ります。「人間界あるいは自然界の現象を、民俗的なローカル世界観の中へ位置づける」際に「物語」としていったん表現を置き換えたことを意味します。

問3【空欄補充・前後の文脈から適当なものを選ぶ】（解答番号は30）

空欄アを含む章段（空欄甲の章段）の二段落目「物語が説明であると言う以上、それは現実のデータによってその妥当性がチェックされる必要があります」から正解が導けました。

問4【空欄補充・前後の文脈から適語を選ぶ】（解答番号は31）

正解は③です。空欄イの後の文章で、レトリックとしての歴史と物語としての歴史とが対比関係にある構造に気づけば、正答が得られました。

問5【空欄補充・前後の文脈から適語を選ぶ】（解答番号は32）

「物語」が経験的テストの対象であるという考えは本文第一段落に書かれています。また、空欄甲の章段の内容から正答が④であることが導き出せます。

問6【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は33）

空欄甲の章段の冒頭を理解すれば、正答⑤が得られました。

問7【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は34）

傍線部Bを含む章段の内容から②が正答であることが分かります。①、⑤は傍線部Bの直後の内容から誤り。③は「どのような心理によってもたらされたか」が誤り。④、⑥は空欄甲の章段の第二、第三段落の内容から誤りであると判断できます。

問8【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は35）

傍線部Cの後の三段落分で述べられた内容から、正答④が導けました。

問9【内容を理解して小見出しを選択する問題】（解答番号は36）

空欄甲の章段の冒頭に述べられている、筆者の「物語」の定義を理解することで正解が導けました。

問10【内容を理解して小見出しを選択する問題】（解答番号は37）

空欄乙の章段の第二、第三段落の内容から「歴史叙述とレトリック」が主旨であることが分かります。

問11【内容合致問題】（解答番号は **38**）

正解は④です。冒頭の内容から正答が得られます。①は歴史叙述の方法として述べられていないので誤り、②は「冒険談にするため」、③は「現実とは無関係なデータ」、⑤は「民話として創作された」、⑥は「仮説を導き出した過程」、⑦は「空想に満ちた物語」がそれぞれ誤りです。⑧、⑨は本文後半の内容から誤りであることが導き出せます。